

## 第4回 名護市総合交通ターミナル検討部会 議事録

1. 開催日時：令和7年6月30日（月）13：00～14：30

2. 場 所：名護市民会館中ホール及びWeb

3. 出席者：○委員

神谷 大介	琉球大学工学部 教授【部会長】
林 優子	名桜大学 副学長
津波古 修	一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会 事務局長（Web）
高江洲 誠	一般社団法人沖縄県バス協会 （代理出席）
小川 吾吉	株式会社琉球バス交通 代表取締役
鹿毛 建造	那覇バス株式会社 副社長
新川 幹雄	沖縄バス株式会社 代表取締役
比嘉 良尚	東陽バス株式会社 運輸部 部長（Web）
谷田貝 哲	合同会社やんばる急行バス
宮城 敦	株式会社北部観光バス 常務取締役
比嘉 悟	第一マリンサービス株式会社 （代理出席）
花城 満	沖縄県警察本部交通部（代理出席）（Web）
吉田 貴也	沖縄県名護警察（代理出席）
亀谷 匡哉	沖縄総合事務局 運輸部 企画室長
関 信郎	沖縄総合事務局 開発建設部 企画調整官
屋我 直樹	沖縄総合事務局 北部国道事務所長
伊藝 誠一郎	沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課長
久場 兼治	沖縄総合事務局 開発建設部 建設産業・地方整備課長
與儀 克明	沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課（代理出席）（Web）
大山 豪	沖縄県 北部土木事務所 技術総括
仲吉 朝尚	沖縄県 企画部 交通政策課 公共交通推進室長（Web）
屋良 朝博	沖縄県 北部農林水産振興センター 農業水産整備課（代理出席）
岸本 啓史	名護市 建設部長

○事務局

名護市建設部まちなか再開発・公共交通課

内閣府沖縄総合事務局北部国道事務所調査課

4. 議事要旨：

委員：アンケートでは交通渋滞への懸念の声がある。バスタだけではなく、国道や高速道路と連携した混雑対策にバスターミナルが機能するための戦略が必要ではないか。レンタカーの社会実験（名護まではバス、名護で借りるなど）や、立体駐車場の整備計画などを連動させつつ、総合的対策によるバス利用促進と車の交通の削減の検討が大切ではないか。地域公共交通の集約化とともに、交通ターミナルを起点とした回遊性のある様々なモビリティの確保について検討していくことが重要。

名護の方々は商店街の活性化を気にしている。一方でシンボルロードとの連携によるまちなかに向けた回遊性向上のための調査とデザイン検討が必要。まちとつながる広場スペースなどの整備は、デザインセンターとあわせて重要。具体的には、イベントと連動した広場の使い方なども災害時のことを考

えると、平常/災害時の利用の仕方の実験・検討が大切ではないか。  
街の回遊性をどのように上げていくか。現状、ロードサイドの店々とまちなかの店が国道で分断されている。歩行者デッキの整備は、国道による分断を解消するための有効な手段の一つである。公共交通で名護市を訪れて滞在できることを、バス事業者・名護市・沖縄県一緒にアピールすることが大事である。様々な滞在スタイルを示す具体的な社会実験の実施を検討してほしい。面の役割を持つ拠点の事業として、ホテル・那覇バスターミナル・名護の交通事業者との連携を考慮し、社会実験の幅を広げていただきたい。

委員： どういった人が名護のバスタで降りて何に乗り継ぐのか、バスタの利用のイメージが見えない。交流等機能と交通機能間のデッキは、最低限必要ではないか。

アーバンデザインセンターではないが、今後通り会のみならず、地元の企業経営者や若者で集まって名護の街がどうなると良いか話し合う機会を設けていきたいと考えている。まちの中に「目的地」が必要。町並みがきれいになるだけでは賑わいにはつながらない。まちづくりに関しては、名護市と一緒に地元に考えていかなければならない。まちなかへの回遊性を高めるには、城～名護十字路のシンボルロードではなく、名護十字路～ひんぷんガジュマルまでをシンボルロードとして整備した方が効果はあると思う。カフェやキッチンカーがあり、楽しく歩けるような空間づくりが良いと思う。最近、大阪の黒門市場を訪れたが、その場で食材を買って食べる、飲むなどの屋台が並んでいるのも名護の通りにあうのではないかと感じている。集客性を高めるため、市街地からも海からも見えるランドマークとして交流施設の上に展望台（名護タワー）を建てたらどうか。建物自体に収益性を持たせることも重要だと思う。

委員： バスやタクシー等を総合交通ターミナルに発着させる際に事業者が負担する料金についても検討いただきたい。あわせて総合交通ターミナルを利用する事業者の選定をどこがやるのか確認いただきたい。

委員： 料金負担については継続して協議したい。事業者選定についても特定車両停留施設の制度も踏まえて検討したい。

委員： 集客施設の利用者を約4,600人/日としているが、試算の考え方や周辺施設との比較を教えてください。

また、ウォーカブルな空間創出を目指す一方で、総合交通ターミナルには立体駐車場が整備される等、自動車利用を前提とした計画になっているように感じられる。全国各地のウォーカブルなまちづくりの事例も参考に検討いただきたい。

公共交通利用やバスタを起点とした回遊を誘導するような仕掛けづくりや啓発も重要だろう。

事務局： 集客施設の利用者数は、「名護市総合交通ターミナル基本計画（令和5年3月）」において、将来需要の試算を踏まえて算定している。ウォーカブルの観点では、まちづくり推進協議会でも様々なご意見が寄せられており、商店街や地元関係者等とも調整しながら検討を進めたい。駐車場については、市街地において現状不足しているといったご意見も踏まえて検討している。北部地域の方々が、自家用車で那覇まで向かうのではなく、交通ターミナルまでは自家用車を利用し、そこから公共交通に乗り継ぐといった移動も想定さ

れる。

委員：既存名護バスターミナルとの役割分担・使い分けについても検討いただきたい。

委員：バスタを起点とした周遊については、市民と観光客とで歩行距離の感覚が異なることも踏まえて検討いただきたい。集客施設と交通ターミナル施設のイメージがリンクしづらく、一体的なイメージを提示いただきたい。昨年のコストコ開業時の渋滞も踏まえると、ジャングリアの開業に伴う渋滞についても対策を講じる必要がある。高速船で来訪した方の移動動線も十分検討いただきたい。

事務局：目的地までの移動の仕方については、コミュニティバス等の二次交通の提供も含めて検討を進めていきたい。

事務局：高速船から総合交通ターミナルまでの移動動線は、名護市と国で連携して検討したい。

委員：シンボルロード整備に向け、土地区画整理にどの程度時間がかかるのか。交通課題解消の観点からは総合交通ターミナルを早期に整備すべきと考えるが、土地区画整理事業の影響がどの程度あるのか伺いたい。またシームレスな交通の実現に向けては、当社グループにて、名護市大北やイオンモール沖縄ライカム内の郵便局にOKICAのチャージ機を設置する取組みを行っている。名護バスタにおいても同様の取組みができればと考える。

事務局：都市計画道路は、令和8年夏頃の都市計画決定に向け、権利者への説明も含めて調整を進めている。全体スケジュールは10年スパン程度で考えている。

委員：計画の具体化にあたっては、バス運行の円滑性の点も踏まえて、事業者とよく調整して進めていただきたい。シンボルロードに関しては、街路樹が車道にはみ出す等、運行の支障になることは避けていただきたい。

事務局：設計は事業者とも十分協議をしながら進める。

事務局：街路樹に関する懸念にも留意しながらシンボルロードは検討したい。

委員：漁港用地の取得が必要となるため事前に調整が必要となる。配置例2は北側の漁協事務所が移設になり、南側も海上保安庁施設が移設になるのではないかと。漁港用地利用計画の調整および変更に加えて、県の関連部局、国の水産庁等との協議が今後必要になると考える。

委員：土地区画整理事業は、住んでいる方の意見をすべて確認する必要がある、場合によっては30年かかるケースもある。令和8年度に都市計画決定に向けて動くということであれば、並行して調整できる部分（例えば北部土木事務所や沖縄県都市計画・モノレール課との協議等）もあると思われる。またシンボルロードは常に清潔に維持する必要がある、植栽の維持管理等も含めて長く継続できる計画や仕組み作りが必要ではないか。また、沖縄県都市計画・モノレール課との協議も必要。

委員：中心市街地のまちづくりの範囲は土地区画整理事業で推進することを考えている。海上保安庁施設等の支障物件の移設についても今後協議を進めたい。都市計画事業に関する協議については、令和8年夏頃の都市計画決定に向けて、沖縄県都市計画・モノレール課や北部土木事務所との事前協議を進めていきたい。

委員：少しずつイメージが持てるようになり、期待している。アーバンデザインセンターも一案だが、まちなかのワークスペース等と分担して機能させること

も重要と考えている。防災機能は平常時も使えるような柔軟性が重要である。10年20年といったスパンで考えると、ジャングリアの開業に留まらず、自動運転の普及等様々な変化が考えられることから、総合交通ターミナルだけでなく、市内・北部地域全体の交通体系について、関係者で協力して考えていく必要がある。レンタサイクルやキックボードも含めて、自分で移動できる交通手段を選択できるということも必要である。総合交通ターミナルを拠点に、離島やクルーズ船との連携も視野に入れたソフト面の連携も重要と感じた。一方でまちなかの老朽化の問題等に対しては、早期の対応が求められると考える。

委員：先週、国際会議を開催した。国際会議はホテルと会議場だけの移動となるため、レンタカーを必要とせず、移動手段は主に公共交通となった。地域にお金を落としてもらうために、公共交通で来た方にどのように回ってもらうか。ウォーカブルの視点に加えて、公共交通とパーソナルモビリティ等との組み合わせも重要である。検討にあたっては2つの空間スケールでの現状把握が重要であり、一つは那覇～胡屋～名護といった県全体の人の流れや、名護や北部地域に滞在する観光客の動きといった大きな範囲。もう一つは狭域で、高速バスや高速船を降りた人がどう動き、どこに滞在し、どこにお金を落としているか。これらをモニタリングする仕組みが重要ではないか。データに基づく現状や施策効果の分析を踏まえ、名護のまちづくりの議論を進展させることが重要である。胡屋バスタと連携しながら進められるとよい。

委員：整備方針については、資料に記載の内容でよいか。  
(会場異議なし)

事務局：整備方針の承認ありがとうございます。発言のあった管理運営の議論も重要であり、今後詰めていくべき内容である。公共交通の利用促進も極めて重要な課題。またウォーカブルについても今の段階では立体駐車場がないと難しいとの意見が寄せられていることから、本日のような整理としているが、現在の課題は10年後の課題とは限らない。道路事業とまちづくり事業でうまく調整しながら、将来的な変化については受け止めることができるようにしていきたい。名護市総合交通ターミナル整備についても、県内で認知度がまだまだ低いので向上していくことも必要と考えている。

以 上